告　辞

本日ここに、平成二十二年度、東京農工大学の卒業式・修了式を挙行することになりましたことは、誠に喜びに堪えません。

本日、博士後期課程を修了されましたのは、工学府五名、生物システム応用科学府二名、連合農学研究科一六名であり、課程博士の合計は二十三名となります。また、連合農学研究科から六名の方が論文博士となられました。修士課程を修了されましたのは、工学府五名、農学府一九名、生物システム応用科学府一名、合計で二十五名です。また工学部卒業生は一名です。晴れて学位記を授与された五十五名の皆さんに、心よりお祝い申し上げます。また、この日を待ちわびておられたご家族の皆様をはじめとした関係各位のお喜びもひとしおと思います。心よりお祝い申し上げます。新たに学士、修士あるいは博士の学位を取得された皆さんには、これまで皆さんを支えてこられたご家族やご指導をいただいた先生方などに対して、改めて感謝の気持ちを思い起こしていただきたいと思います。

さて、皆さんは本日をきして、最高学府である大学をあるいはその上の大学院を終えられます。東京農工大学で学んだ皆さんには、専門分野はもとより、それとは関係が薄いと思われる分野においても、学ぶ姿勢を失わず、知性溢れる研究者・技術者として成長していっていただきたいと思います。

知性とは「物事を考え、理解し、判断する能力」です。漢字源によれば、知性の「知」は「矢」と「口」を組み合わせた会意文字であり、矢のようにまっすぐに物事の本質を言い当てることを意味するとあります。日本語の知性にあたる英語の intelligence はラテン語の intellectus に由来し、“間”を意味する inter と“理解し学ぶ”を意味する lego から合成された動詞の intellego から派生したものといわれます。その意味するところは「いろいろある選択肢の中から適切なものを選ぶ能力」でありまして、「本質的なところを見抜く」という意味を表す漢字の“知”が意味するものにまさに合致していることになります。先日、私は「システムのインテリジェント化」に関してある季刊誌の巻頭言を頼まれ、その執筆の過程で intelligence の語源が気になって調べたところ、上のようなことを知りました。それぞれが独立して発達した全く異なる言語体系の中で、intelligence と知性という単語の由来までが見事に一致していることに、ある種の新鮮な驚きを覚えたわけです。ことの本質を見極めることはたやすいことではありません。博士課程を修了された皆さんはこれからひとり立ちした研究者・技術者として社会で活躍されます。修士課程を終えられた方々も社会に出て活躍される方が多いと思います。社会に出ても、大学院でさらに進んだ課題に挑戦する場合であっても、皆さんが取り組む科学技術上の多くの問題は複合的です。地球温暖化への対応、化石エネルギーからの脱却、深刻な感染症対策など、どれも広い分野の課題が極めて複雑に相互に関連したものとなっております。このような地球規模の難問を直接的に扱う場合でなくとも、一つの専門分野を超える課題が複雑に絡み合っていると考えねばなりません。そこには本質

を見極める力が必要です。まさに知性溢れる研究者・技術者となることが要求されております。皆さんには幅広い基礎知識に裏打ちされ、枝葉末節に影響されず、的確な判断力を備え、これらの問題に立ち向かえる高度な研究者・技術者として成長していただきたいと思います。

「教育とは自分の頭で考えることを教えていくことだ」といわれます。本学の教育の理念である課題の探求能力と解決能力の育成はまさにそのことを指しているわけであります。この教育理念の下で学び、本日学位を授与された皆さんこそ、これからの世界を担うに相応しい期待の星であると言ってよいでしょう。皆さんはこれから色々な課題に遭遇することと思います。その解決法を自らの頭で考え、その本質を見抜き、それに基づいて行動することが求められます。我々は皆さんをそれに応えうる人材として、自信を持って社会に送り出したいと思っております。

今はまさにグローバル化の時代です。通信手段、交通手段が飛躍的に発達し、空間的、時間的距離が劇的に縮まってきております。しかも、一つの出来事の影響が地球全体に波及し、国の枠を超えた対応が必要とされます。皆さんの活躍する社会はそのようなグローバル化した社会です。グローバル化は世界が一様な社会になることを意味しません。それぞれの国が固有の歴史文化を維持し、相互にそれを尊重し理解することが基本になければなりません。皆さんには、そのようなグローバル化時代の国際人になっていただきたいと思います。

本日の修了生の中には、十カ国から十名の課程博士を含む二十九名の外国人留学生が含まれております。留学生の皆さんは異なる言語、文化、習慣の壁を克服し、学位を取得されました。今日までの努力に対して深く敬意を表します。母国に帰られる方々には、日本で学んだ専門知識を生かし、自然環境との調和のとれた母国の発展に大いに寄与されることを祈っております。皆さんには母国に戻ってからも、本学との関係を密に保っていただきたいと思います。

最後になりましたが、今後とも皆さんが心身ともに健康で、これまでに修得された学識と技術を存分に活かして活躍されますよう祈念し、また、本学のさらなる発展のため、同窓会活動などを通じて、ご支援くださいますようお願い申し上げまして、ここに告辞といたします。

平成二十二年九月一五日

東京農工大学長　小畑　秀文